

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2012年1月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.59 「全ての行動にあなたの理念を」

明けましておめでとうございます。今年もメール・セミナーを通して良きお付き合いをお願いします。

「人はデジタルに感心はするが感動はしない」

何度も言い続けている原則です。裏を返せば、人はアナログに感動するのです。アナログとは「人」そのもの…極論すれば「あなた」そのものです。あなたの言葉、行動が相手を感動させなければなりません。

例を1つ挙げます。

大晦日の夕方、ローカル・ニュースで必ず流される「年末の風物詩」として「大手塾の年末・年始特訓」があります。東海地方でも、私が確認できただけで3つの大手塾の合宿の様子が放映されました。それを見て、同世代の子供を持つ保護者は「ああ、年末・年始を返上して頑張っている子供たちが大勢いるんだ」と感動します。

ところが、我が子が通っている塾は年末・年始は休みです。さて…その瞬間です。保護者の脳裏に一つの疑念が生まれます。

「あの塾は面倒見の良さを売り物にしているけれど、本当に面倒見が良いと言えるのかしら…？」

そう、ほとんどの大手塾は年末年始も仕事をしていますが、ほとんどの中小・個人塾は年末年始を休んでいます。あなたの塾はどうでしたか？もし、近隣他塾が年末年始を休業しているのなら、「あなたの塾だけは年末年始も営業する選択肢」があってもいい。実に分かりやすい差別化です。

いえ、私は「正月も営業した方がいい」と主張したいわけではありません。「休業するときも感動を与えなければならない」と言いたいのです。大手塾は若いスタッフが年末年始を返上して働いている姿を見せることで感動を提供しています。それに負けないだけの感動を塾生たちに、保護者に、地域に提供しなければ「勝てない」のです。

私も現役の塾経営者だった時代、大晦日～正月3が日は教室を閉鎖していました。ただし、冬期講習のチラシで、秋の教育説明会で、入塾時面談で…ありとあらゆる機会に訴えました。次のような趣旨です。

確かに子供たちには勉強が必要です。しかし、学生である前に家族の一員でもあります。たとえ受験生だからと言って特別扱いしたり、家族としての役割を免除したりすることには断固反対します。勉強とは自らを鍛え、将来、社会の役に立つ人物になるための修業です。その勉強を理由に、人として、家族として為さねばならないことを免除するなどの特別扱いすることは、勉強本来の趣旨から逸脱するものです。大晦日は家族と共に大掃除をし、一年を振り返る時間を持つ。正月は家族揃って雑煮を食べ、氏神様にお参りをする。実家の祖父母の家には挨拶に行く…そうした家族の一員として当たり前のことを当たり前前にできる人であってほしい。二日や三日、勉強をしなかったからと言って、それが原因で志望校に落ちるような「やわな指導」を当塾はしていません。どうぞ、安心して家族団らんを楽しんでください。

こうした主張をしていると、「そうですよね」と共鳴（感動）してくれる保護者が集まってきます。私は、「受験生だから家の手伝いをしなくてもいい」と言う保護者（母親）には「子供を甘やかすとダメになる」と叱り飛ばしましたし、「受験生なのに家の手伝いをさせられる」と愚痴や文句を言う生徒も「ふざけるな!」と叱り飛ばしていました。

年末・年始に休業することが悪いわけではありません。「それが当然のごとく休業すること」が悪いのです。「当たり前のこと」には感動が生まれません。そこには「あなたの理念」が感じられないからです。全ての行動に「あなたの理念」を宿してください。

2012年があなたにとって最上の年になりますように…

■余生はジャズ三昧に・・・

一塾をお辞めになる理由は何ですか？

「大手塾を二つ経て独立し、すでに二十年やりましたがもう50代も終わりかけて・・・プレイングマネージャーで生徒指導と塾経営の両方を続けていく限界が見えたからです。息子が結婚して孫ができたことも大きい。孫からお爺ちゃんと呼ばれるようになったら塾は引退しようと考えていましたから。

塾部門は中学受験指導だけで、算数と国語を私が教えて残りの教科は時間講師にお願いしていたので、生徒が減っても人件費面の負担はそれほどありませんでした。速読や作文指導などもやっていて順調に売上があり、こちらを残せば定期収入は確保されます。塾を売却するわけではなく、塾に使っていた一棟借りの校舎をい抜きで引き継いでもらうのです。大家さんもそれは大助かりで、新規開校は別の看板で構わないですし・・・。

私は新たな資金を元手に長年の夢だったライブハウスを経営し、余生は好きなジャズを聴いたり、中年のコピーバンドや学生バンドなどの溜まり場をつくっていきたいのです。教える子も来てくれるでしょう」

■大手塾の中身の区別がつかなくなってきた・・・

一二十年の間、周囲の塾を見てきた感想をお聞かせください。「今だから自分の言いたいことが言えるけれども、独立した当初は他塾が怖くて仕方がなかったですね。それからずっと今まで、生徒のことだけ考えてがむしゃらに指導してきましたが、大手塾には規模で叶わないけれども、指導の質というか情熱だけはずっと負けなかった。だから毎年全員が第一志望に合格してきました。

結果として言えるのかもしれませんが、これが理想的な塾の在り方ではないかと私は思います。

最近は大手塾同士が同じツール、似たような教材を使うようになり、中小塾や個人塾は大変になってきました。何が特色なのか、区別がつかなくなっているからです。大手塾同士が業務提携したり株の持ち合いをする資本提携も盛んに

なり、いよいよ今後大合併が可能な時代になったのではないのでしょうか」

■塾は人が全て

一これからの塾はどうあるべきだと思いますか？

「規模が大きくなることは時代の流れであり仕方がないのかもしれませんが、指導の中身だけは質を落とさないように、正社員の人材育成と優秀な講師確保には力を惜しまないでほしい。塾は人が全てです。

国際化といっても、資格の時代といっても、まず日本のことをちゃんと教える塾であってほしいし、勉強だけでなく、しつけや礼儀、特に親孝行や大人を敬う姿勢などを重視してほしい。講師の人間性といっても、どんな気持ちで生徒に向き合うかが大事であり、ちゃんと向き合えない人は塾に必要なわけではないわけですよ。

まだまだ塾で教えていたいけど、人生には限りがあるので、残りの人生は我がまま言わせてもらいます・・・」



業界の大御所から恒例のコメントをいただきました。

引くことを覚悟した経営をせよ

「東日本大震災の前から日本経済はすでに悪い状況へと突き進んでいて、震災でそれが加速度的に早くなったといわれている。だから、しばらくはかんでも上手くはいかない。塾の展開においては、新たな地域に展開したりせず、地元で統廃合しつつ堅実にニーズを捉えた経営をしなければいけない。つまり、駄目だと思ったら潔く引くことを覚悟した経営をしろということ。

現在の日本経済を考えたら、どのような塾でも『一人勝ち』などありえない。そのエネルギーを溜めておいて、将来に役立てるほうがいい。世界経済も、ギリシャやスペインなどをはじめ経済悪化とアフリカ、中東、西アジアなどの政情悪化で何が起こるか分からない時代だから、塾も相当の覚悟をして経営していかないとすぐ駄目になる。先を読まない人は経営者として認められないね」

塾は人というものが要でありリスクでもある

「特に正社員の高齢化、これに気をつけなくちゃいけない。経営幹部を除いて、正社員の平均年齢が 50 歳代とかは問題外だ。うちも早期退職勧奨をしており、退職五年前に辞めれば退職金に 1000 万円を上乗せして支払う・・・それでも 5 年間給与や賞与を支払うよりは格段に経費節約になるし、辞める人もメリットが大きいと言ってくれる。

どんな職業でも人は大事だが、特に教育という仕事では、人が要であり同時に最も大きなリスクもそこにある。人材採用と育成について曖昧だと塾はすぐに潰れるよ」

人と人とを繋ぐものとは何か？

「今回の東日本大震災で、人と人との絆が重視されたね、今年の漢字にも選ばれた・・・来年は絆だけでは駄目だ。喝かもしれないし蘇かもしれないが、とにかく前進することが大事だ。たとえ、気持ちが先行していても、後ろはふりむかないことだ。感傷に浸っているのは子供たちの未来が危ない。

我々大人が未来に希望をもって生きていなければ、子供たちの顔だって暗いままで明るくならないからね。前向きに頑張るしかない」

第11回 中学校の新しい学習指導要領 ～英語・国語～

新年明けましておめでとうございます。いよいよ受験シーズンが到来しました。

入試は子供たちの人生を大きく左右する一大イベントです。入学する学校によって、その後のすべてが大きく変わるといっても過言ではありません。学習塾とは、その人生の岐路にいる子供たちを間違った方向に導かないように案内することこそが、本当の役割だといつも私は思っています。学習塾として、合格実績がとて重要なのはわかりますが、子供たちの未来がかかっていることは忘れないでいて欲しいと心から願います…。

さて、先日、姫路で開催されました中央教育研究所株式会社主催の教材展示会に参加いたしました。とても多くの先生方がご来場され、各出版社の新刊・改訂版を手にとって、内容を確認していました。今年は中学教科書の改訂に基づき、各出版社はかなり力を入れて、教材を揃えています。表紙デザインが華やかになり、教材の紙面もほぼ二色刷りかフルカラーです。生徒がより視覚的に認識しやすいような工夫が多くされています。ぜひ一度、教材展示会にご来場していただき、手にとって、その内容を確認してみてください。

では、本題に入っていきます。今回は新しい教科書の「中学英語・国語」です。

中学英語で大きく変わるのは、2点あります。

①授業時間数の増加

②語い数が 900 語から 1,200 語へ増加

語い数 300 語増加というのは、高校から移動してきた新規単語が 300 語というわけではありません。イディオム（動詞＋前置詞のセット）も一つの語いと考えると、合計で 300 語の増加があるという意味です。つまり、暗記する文法問題の量が増加することになります。

また、英語での自己表現能力を高めるために、プレゼンを取り入れた単元…例えば、「なりたい職業を英語でスピーチ」という試みも、新しく加われました。

次年度以降の高校入試の英語は、文法問題の難化・読解問題の長文化・自由英作文の出題の増加が見込まれます。それにしても、英語はまだまだ文法教育から抜け出せそうにないですね…。英会話ができる日本人が育つまでにはまだ時間がかかりそうです。

■東京書籍「NEW HORIZON」カリキュラム一覧表↓

http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu24/subject/eigo/content/eigo_file3.pdf

■三省堂「NEW CROWN」指導・学習内容一覧表↓

http://tb.sanseido.co.jp/24/newcrown/pdf/2011sep/24NC_sidoukeikaku.pdf

これらの資料は自由に配布してもOKです。

続きまして、中学国語です。国語は文章の題材からして大きく変わります。

<東京書籍学習材一覧>

- ・夏目漱石「坊ちゃん」、芥川龍之介「トロッコ」、太宰治「走れメロス」といった文豪
- ・あさのあつこ「風の唄」、重松清「卒業ホームラン」といった現代作家
- ・「徒然草」「平家物語」「おくのほそ道」「伊曾保物語」「竹取物語」といった古典
- ・中原中也「月夜の浜辺」、北原白秋「落葉松」、島崎藤村「初恋」といった詩人
- ・「矛盾」「漢詩」「論語」といった漢文

と、幅広い分野の作品がたくさん掲載されています。また、全体的に取り扱っている文章自体が長くなっている印象があります。

他にも、「インタビュー」「レポート」の仕方といった言語活動の内容もふんだんに盛り込まれており、人前で発表する機会が増える授業となりそうです。

漢字については、常用漢字の数が 2,100 字を超え、新常用漢字も数多く加まりました。詳しくは「漢字辞典ネット」というサイトをご覧ください→<http://www.kanjijiten.net/index.html>

■東京書籍 中学国語学習材一覧↓

<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu24/subject/kokugo/pamphlet/kokugo2.pdf>

■光村図書 単元別系統一覧表↓

http://www.mitsumura-tosho.co.jp/material/pdf/kyokasyo/chugaku/kokugo/file_hensyu/k_naiyo_a_11tangen.pdf

こちらの資料も配布可能です。

今回の改訂の目玉はたしかに理数系教科ですが、その理数系の問題を読み解くためには、国語力向上が必須です。公立中高一貫校の入試の基本も読解力・分析力です。近年、語彙力のない子供たちが増えています。インターネットや携帯文化が普及していますが、やはりたくさん本を読み、自分の手で漢字を書き、本当の日本語に触れておくことはとても重要だと感じます。ぜひ本を音読し、耳で聞き、手で文字を書き、日本語を上手に使いこなせる子供たちに育てて欲しいと思います。

次回は、中学社会と高校の教科書について説明をしていきます。では、また…。